

令和3年10月 文書質問及び回答

1 質問者 我孫子洋昌議員

2 質問事項 下川商業高校と地域社会との関わりについて

質問の内容・要旨	回答
<p>令和5年度に、名寄高校と名寄産業高校が統合され、新設高校が誕生する。現在、名寄高校付近にJRの駅を設置して通学環境の改善を図るほか、既存校の高校生や関係者が参加する協議の場において、新しい高校のあり方が検討されている。</p> <p>一方で、下川商業高校においては、販売実習会や地域でのインターン実習、地域課題の研究を行うなど差別化が図られているが、今後も特徴ある高校を目指す必要があると考える。そこで、以下考えを伺う。</p> <p>①下川商業高校の魅力向上に向けた取り組み 今後、各高校間で生徒確保に向けた動きが活発になることが予想される。在校生や保護者、地域住民等からの意見を取りまとめ、高校の魅力向上に向けた取り組みを行うべきではないか。</p> <p>②商業高校生と地域社会との関わり方について 現在、地域事業所でインターン実習が実施されているが、期間の長期化や、派遣先を複数体験できるように拡充を検討すべきである。このことで、事業所や生徒がお互いを知る貴重な機会となり、地元就職にもつながる取り組みに対し、町として支援策を講じるべきと考えるが如何か。</p>	<p>① 下川商業高校への支援につきましては、保護者への経済的支援として、入学準備金12万円支給、通学費助成金として定期運賃の半額助成、各種資格の検定受験料の補助など、各種経済支援を行っているほか、販売実習や地域インターン実習など独自の取り組みを行ってきているところです。</p> <p>今後も、これらの取り組みについて積極的にPRし、生徒確保に努めていきたいと考えています。</p> <p>② 高校生と地域社会の関わりとしては、これまで1年生でのインターンシップの授業、2年生での商品開発の授業、3年生での販売実習、課題研究の授業で、地域との関わりを持っているところあります。</p> <p>また、町の各種イベントへの参加など、様々な形で地域社会との関わりを持っているところです。</p> <p>インターンシップの期間の長期化、派遣先の複数体験については、授業時数の兼ね合いもあり高校との協議が必要ですが、高校3年間の授業を通して、系統立てて地域社会との関わりを深めて行けるよう町として支援して参りたいと考えております。</p>